

# 資源回復計画に関する研究（トラフグ）

（予算区分 交付金 研究期間 平成 17～24 年度）

担当：浜名湖分場 山内 悟

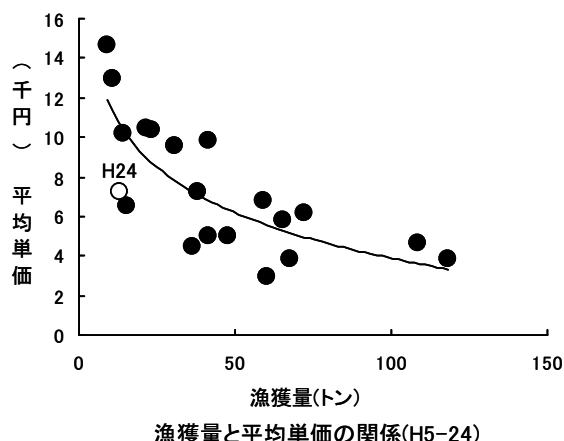
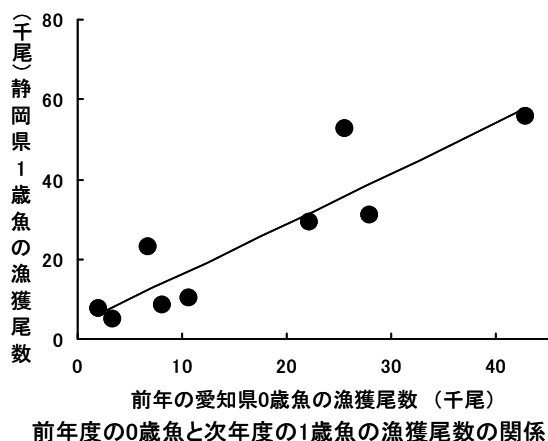
## 【研究の背景とねらい】

これまでの研究で、静岡県、愛知県及び三重県のトラフグ資源は、3 県共通の資源であることが判明しました。そこで、正確な資源の状態を把握するため、3 県共同で漁獲物組成、漁獲量などを調べ、その結果を解析して、資源の有効利用と増大方法を検討します。

また、3 県沿岸ではトラフグ種苗放流が精力的に行われていますが、資源に対してどの程度貢献しているのかがよく分かっていません。そのため、平成 20 年度からは、放流した種苗も含めた資源解析を行い、適正な放流量や方法などを検討することになりました。

## 【研究成果】

- ・資源解析の結果から、この海域のトラフグ資源は、不定期に発生する卓越年級群の影響で、資源量の年変動が大きいことが判明しました。また、資源に対して強い漁獲圧がかかる傾向があり、小型魚の保護が有効と考えられました。
- ・単価と漁獲量の相関について調べたところ、単価と漁獲量は逆相関の関係があり、近年は以前に比べて安価で推移している傾向が見られ、トラフグの単価は景気の影響を強く受けることが考えられました。
- ・伊勢三河湾で捕獲される 0 歳魚の漁獲量と、次年度の遠州灘で漁獲される 1 歳魚の来遊量の関係が強いことがわかりました。遠州灘でのトラフグの漁獲は 1 歳魚が主体であることから、この方法により次年度の漁獲量を精度よく推定することができるようになりました。



## 【研究成果の普及方法】

- ・資源の状態が正確に把握され、資源状態に合わせた適切な資源管理が実践されます。
- ・トラフグ種苗放流が天然資源に与える影響が把握され、適正な放流量や場所などが判明しました。今後はこれらに基づき、静岡県、愛知県、三重県の協力体制の維持に努め、共同でトラフグの資源調査や種苗放流を実施し、資源の有効利用や資源増大方法について検討していきます。

（作成 平成 25 年 3 月）